

03

日頃から減災中！いざという時にこそ強いまちを目指して

地域社会資源活用による木造密集地域の再生とレジリエントなまちへ

あいりん地域は、すでに区画整理がされて防災性能の高い建物もおおく、多様な生活支援団体の存在や行政を含めた緊急対策の経験が積み重ねられてきた地域でもあることから、実は防災まちづくり的には最先端の「減災」のまちであるといえます（昔から「炊き出し」など緊急時の対応が日常的に行われていることも貴重な経験ですね）。

しかし周辺地域をはじめ西成区は、木造密集地が広がり、空き家問題と建物老朽化、居住者の高齢・単身化が深刻であり、調査でも「最も悪化した課題」と意識されています。また、被保護世帯向住宅の質の悪さ、居住者孤立問題と地域コンフリクト、違法民泊問題も顕在化しています。特区で進めている「あいりんをセンターピンとする」* 取組みと、周辺の課題に対する相互連関性のある具体の取組みを進めることがとても大切です。

国はこの数年、既存建築ストック活用やそれらをマネジメントする体制を推進する様々な制度を制定しています。市は 5,100ha を防災性向上優先地域に指定していますが、西成区は面積的に最も対象エリアが広く、空き家率は市で最も高い状態です（空き家は 2 万 2 千戸）。

防災まちづくりは、多様な人々にとってリアリティのある共有しやすいテーマですが、このまちでは半ば「あきらめ」かけていたテーマだったようです。今地域諸団体が多様なテーマについて横断的に議論している歴史的契機を逃す手はありません。

【西成区の特徴】

➤ 高齢単身世帯率

32.4% (H.30国調)

➡ 全国一

➤ 生活保護率

234.7% (H.24大阪市)

➡ 全国一

➤ 空き家率

23.8% (H.25住宅・土地統計調査)

➡ 府下一

* 平成 24 年 10 月 11 日第 3 回西成特区構想プロジェクトチーム会議に提出された「西成特区構想有識者座談会報告書」において、最も深刻な課題が集積するあいりん地域に資源を集中させ、その解決をもって大阪市域の課題解決の道筋をつけるべきである。とした。